

校長通信「学ばん共に」



その5 「言葉を磨く」(保幼小中合同研修 あいさつ)



8月7日 保幼小中合同研修 グループ討議より

▶自宅の前に公園があります。子供たちの遊ぶ声が常に聞こえてくる、親子連れの多い平和な公園です。十数年前、かなり昔の話ですが今ぐらいの季節でしょうか、その公園で中高生数人が花火で遊んでいました。手持ち花火くらいなら黙っていたのですが、ロケット花火や爆竹で大騒ぎしていました。中には筒型花火を手を持って振り回す者もいました。

▶ちょうど小2と年中の息子を連れて公園で遊んでいた私はすぐに中学校教員のスイッチが入ってしまいました。「やいっ!!」と大声を出し、つかつかと中高生の方へ歩いて行きました。まあ、昔はよくいた昭和のおじさんです。

▶中高生たちは蜘蛛の子を散らしたように一目散で逃げていきました。でも、最初に逃げだしたのは私の息子たちでした。家に逃げ帰った長男に「どうしたよ」と聞いてみると「あの人たち知ってる。後で僕らがやられる。お父さんと一緒にいるとマズイ。」と答えます。なるほどな…長男の言うことも一理あります。家内にも叱られてしまいました。

▶子供たちには子供たちなりの世界があると改めて感じました。怒鳴られた中高生も場所を変えて同じことを続けたかもしれません。今思うと本当に下手な声掛けだったと思います。

▶同じ公園の話ですが、最近のことです。中学生数人が公園の周りで小枝や落ち葉を投げ合って遊んで

いました。仲間同士のちょっとしたふざけ合いです。ただ、歩道にまで小枝や落ち葉がいっぱいになっていたもので近づいて声をかけました。

▶「君ら、ちょっとこっちおいで。S中のサッカー部だね。(持っていた道具やジャージでわかります。) A先生に教わってるよね。今日はテスト休みか。勉強頑張れよ。…あつ、それと、…ここは地域の方の大事な歩道だから元通りにしておいてな…〇〇君頼むよ」リーダー格と思しき少年の名札を見てそう伝え、スタスタその場を離れました。家に戻って、2階からこっそりと少年たちの様子を見ていたら、中学生全員で歩道をきれいにしていました。

▶子供の心に響く言葉を選ぶ…「自分の言葉」でわかりやすく伝える…私たち教師にとって、いや1人の人間にとって、これはとても大切なことだと思います。私自身、日々是れ修行だと感じております。

▶本日の研修のメインは各テーマに分かれてのグループ討論です。可美地区の4つの園と2つの学校の先生方が顔合わせて、子供の育ちや教師の関わりについて自由に意見を交わす、大変貴重な時間です。

▶各年代の子供たちの様子や変化を具体的にイメージすることで、夏休み以降の指導が、さらに確かなものに近づくとと思います。自己紹介から始まるグループも多いとは思いますが、校種・キャリア・世代を越えて、活発な話し合いになることに期待しております。「自分の言葉」を磨く、よいチャンスだと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

.....
コロナ5類移行により、こうした職員研修もリモートではなく、対面で行われるようになりました。顔の表情や微妙な空気から伝わる気持ち…それを感じながらの話し合い…やはり大事ですね。目の奥に光るものをとらえることが、私たち教師にとって何より大切な能力だとあらためて実感しました。

保幼小中12年間で大きく成長する子供たちのイメージをどう共有し、具体的な指導技術や接し方のノウハウについて忌憚のない意見を交わし合う…大変有意義な研修になりました。

(北村健治)